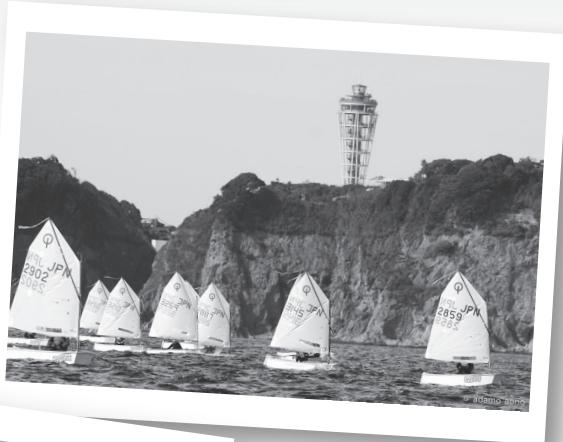


JODA YEAR BOOK 2016



日本OP協会

始めの一歩と大きな自信

日本オptyミストディンギー協会

理事長 田 中 令 江

夏の喧騒が秋の静けさに変わり、寒風が牙をむき始める頃、力を蓄える季節が始まろうとしています。皆様方には、日頃より日本オptyミストディンギー協会の活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。

本年も、全国各地でたくさんの大会が開催され、たくさんの選手の笑顔や泣き顔が生まれました。

自分の力の限界を知り、それを悔しさや喜びと共に乗り越えていく機会をもてることはとても幸せなことだと思います。熟練の選手たちは、風の声を聞き、波を味方につけ、私達の想像以上の力を発揮してくれます。そこに至るまでには、どうしても最初の一歩が踏み出せず、足の竦む想いをし、涙をみせた事もあったことでしょう。しかし、小さなきっかけから、ひとたびオptyミストの虜となれば、自分で考え、行動し、どんどん吸収し、素晴らしいセーラーに成長していきます。そして、あんなに怖かった強風でも自信を持って笑いながら走れる選手となります。是非、手に入れたその経験をセーリングだけに留めず、人間的成长にも繋げていってほしいと思います。

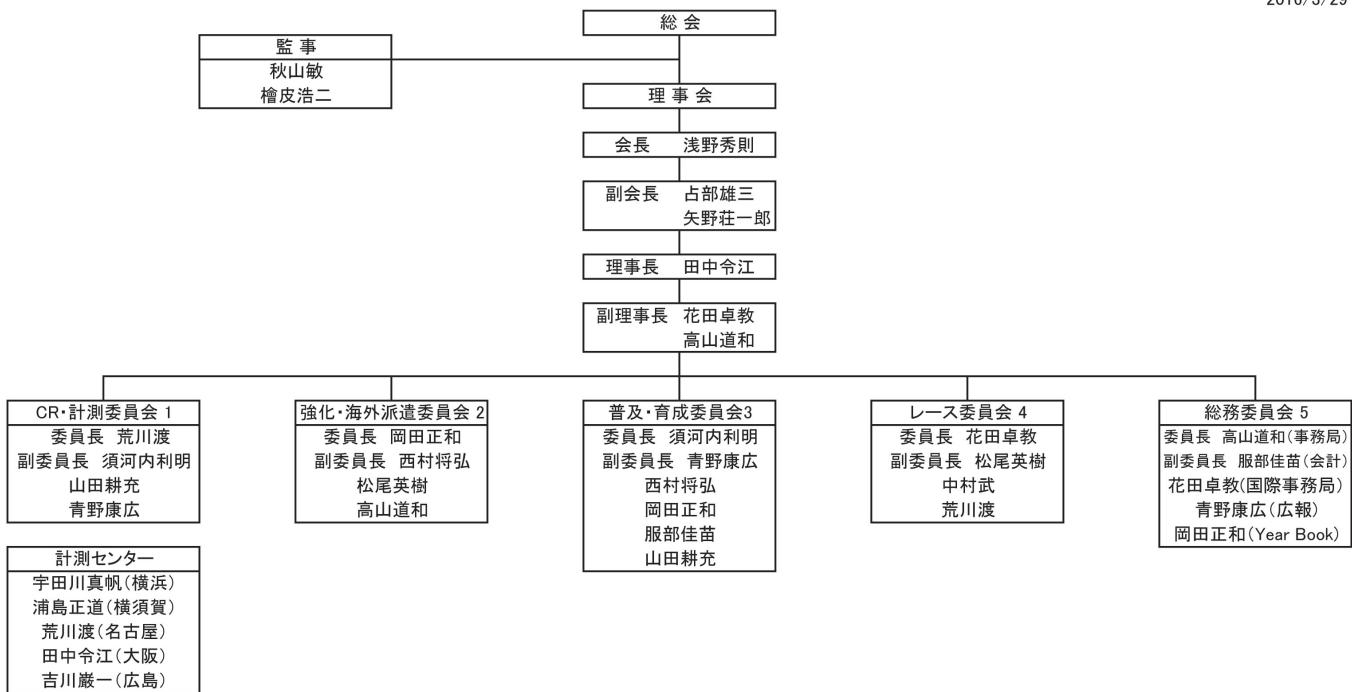
そして、いつもその後ろには、安心して海に出て行くことのできる環境を整えてくださる指導者やご父兄の方々のご尽力があります。そのことに選手たちが気づくのは、もう少し後になってからになるかもしれません。今後ともご理解ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2年後の2018年に日本オptyミストディンギー協会は50周年を迎えます。今まで、続いてきたよき歴史を引き継ぎ、次の50年に向けての新しい風を受けながら、子供達や皆様とともに前に進んで参りたいと存じます。

皆様方には、引き続きご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2016年(平成28年) 日本オptyミストディンギー協会 組織図

2016/3/29



IODA 世界選手権 2016 ポルトガル大会

開催地：ポルトガル、ビイラモウラ町 会場：ビイラモウラマリーナ

参加国：58カ国（255艇）

2016年6月25日～7月4日

監督：菅澤 祐輔

6月15日、大会1週間前に設定されたプラクティスレース参加のため、リサが一足先に出発。6月21日、カイヨウが関西国際空港から、コウジロウ、リクタ、リュウノスケが成田空港から、待ち合わせ先のオランダ・アムステルダムのスキポール空港に向けて出発した。アムステルダムで合流し、約5時間後、ポルトガル・ファロー空港に到着したのだが、セール・スパー・フォイルの3点がロスト。ハプニングはそれだけではなかった。空港に24時過ぎに到着後、大会アナウンスとは異なる施設に運ばれ不安な現地入りとなった。宿舎はホテルではなくツインルーム2部屋、バス・トイレ・キッチンと広いリビングが用意されたアパート、初日は即就寝となった。ロストした荷物は、大会運営のサポートもあり2日後、大会本部に全てが無事到着した。

翌朝初のポルトガルの朝を迎える、朝食、OPの受取り、儀装と練習のため、ハーバーへ向かった。フットベルトの交換やセンターボードとケースとの敷居滑り調整など2時間程度作業しリサと合流、これで選手5名全員が勢ぞろいした。この日も朝から青空であったが空気が乾燥していることもあり肌寒く感じた。日中になるに従い日差しが強く30度を超える体感気温。この日の風は非常に強く平均15～16Knots、落着いた午後3時ごろ出艇。海上ではイギリスチームと2時間の合同練習でお互いスピードのチェックをした。

6月25日のオープニングセレモニー当日は、はしり合わせ、艇のセット、セールの調整、波対策や潮の

動きなど明日から始まるレースに備えて海上のコンディションの把握に時間を費やした。オープニングセレモニーが始まるまで時間があったのでアパートに戻り、「帆走指示書」の読み合わせなど明日の準備ミーティング。セレモニー会場まで行進、Team Japanが紹介され、選手一同終始リラックスモードで楽しんだ。

3日目以降の生活パターン。

6：30	朝食準備開始
7：20	選手起床
7：30	体操・散歩
7：50	軽い朝食
8：30	ビラモウラハーバー
8：45	朝食（食事テント）
9：00	コーチミーティング
17：30	帰着・片付け
18：00	夕食（食事テント）
19：00	プロテスト他掲示確認
19：50	グリーンビラ（アパート）
20：30	ミーティング
21：00	フリー（就寝）

Day1（6月26日）、レース初日のディビジョンは、ブルー：リサ、レッド：リュウ・リクタ、グリーン：コウジロウ・カイヨウ。北西9.5Knotsの風の中、11：30「D旗」掲揚、第1レースがスタート。スタートラインは長めのセットでルーズな間隔の印象を受けた。しかし、準備信号は、いきなり「U旗」から始まりゼネリコで即ブラック、国内レースでは考えら



れないほどタイトなスタート。スタート失敗後のリカバリーが思うようにいかず後手のコース展開となり苦戦を強いられた。全てのディビジョンで2レースが終了した。Day2（6月27日）軽風、Q3、Q4の2レースが予定されていたが終盤風が無くなりグリーンの第4レースがノーレースとなった。Day3（6月28日）、初めての曇り空に雨、しかし風無し、陸上待機となった。雨は止み日が差したもの風吹かず暑いだけ！サポートボートをシェアしているベルギーチームと写真撮影。14：30にようやく出艇し昨日ノーレースとなったグリーンのQ4を終え、Q5・Q6の2レースが行われ、予選6レースが終了した。予選レースの結果は、リュウ39位（Gold）、リサ77位（Silver）、リクタ185位（Bronze）、コウジロウ194位（Emerald）、カイヨウ243位（Emerald）。

7月2日・3日はチームレース。個戦が終了し息つく暇なく「帆走指示書」の読み合わせと作戦会議が夜遅くまで行われた。レースは3回勝てばファイナルステージに上がり、2回負けると敗退となる。日本は初戦メキシコと戦い24対12点で勝利、2回戦目は強豪揃いのドイツに敗れた。しかし、次のイギリスとの第3回戦は26対10点で圧勝。残り1勝で決勝シリーズ進出、勢いに任せたいところ風が弱まり明日に持ち越された。翌日、予選決勝ではブラジルとフィニッシュライン手前ぎりぎりまで激しい攻防が続いたが惜しくも敗れた。

食事の他に選手の体調管理として、なるべく早くアパートに戻り身体を休めることと、OFFの時間をつくりリラックスさせることに努めた。海外遠征で毎年感じることは、海外選手の「ON」と「OFF」の切替が早いだけでなく集中が深い。遊びにしても100%

全力で楽しんでいる姿を目にする。「ON/OFF」の上手な使い方は、集中力を持続させるためにも日頃の生活や練習で身に付けたい。

7月4日、2016年度オプティミスト級世界選手権ポルトガル大会は盛大なクロージングセレモニーと共に閉会した。約2週間の大会生活の中で大きなトラブルもなく選手は悔しい思いもあったが、最後の最後まで諦めずレースに集中していた。アパートでのオフタイムでは全員がフレンドリーに楽しそうに過ごし、恒例の土産交換でも他国選手とのコミュニケーションで格別の笑顔を見ることができた。貴重な機会を頂き関係者の皆さんに感謝申し上げたい。

今回、参加した5名は一年の「約3分の1」を海上で過ごしてきている。それぞれ場所は違えどOPへの想いは変わらずみんな目標に向かって強く結ばれていた。君たちが努力を重ねてきた膨大な時間は自身の糧だけでなく、後輩たちの心にも確実に刻まれている。これまでに出会った方々、支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れずに、それが次の目標に邁進してほしい。

本当にありがとう、おつかれさま、そして更なる躍進に期待している。

【最終成績】

個人総合

18位（入賞）菅澤龍佑、

93位 抜井理紗、

163位 服部陸太、

206位 内貴航路朗、

228位 前田海陽

チームレース

32位タイ



OPTIMIST EUROPEAN CHAMPIONSHIP 2016

：イタリア クロトーネ

2016年7月15日～7月22日

監督：佐々木 厚

2016年のヨーロッパ選手権はイタリアの南に位置するクロトーネで開催されました。羽田に集合した一行はローマへ直行便で入った後、次の日の昼にローマからの別の便でクロトーネに入りました。

クロトーネはのどかな港町といった風情で街全体がゆったりとした時間の流れる場所でした。今回の大会はクロトーネでも今までにない大規模な国際レースとなり、街を挙げての盛り上がりが空港を始め随所で見られました。運営スタッフにはハーバーのスタッフ以外にも30名近くのクロトーネの若者達がボランティアで参加し、大会を多いに盛り上げていました。

到着した翌日、早速チャーター艇を受け取り海上での練習に出ました。南イタリアの海は映画のように大変美しく、風も十分に強くレースには最高の環境でした。練習は風が35ノット近くに上がった為、一時間ほどしてハーバーバックしました。選手が練習中、陸では現地のスタッフに日本のお土産を渡した所、非常に喜んで頂きその後の大会期間中も何かと困った時には色々と力になって貰えました。

二日目の午前中はしばらく海上で練習を行い計測に備えました。今回もベルギーチームとボートをシェアする事になりましたが、大変人柄の良い感じの若いコーチでした。計測はセール番号の形状ルールに変更があり、それに伴う修正以外は大きな問題はなく、チームジャパンは全員パスしました。

オープニングセレモニーはクロトーネのビーチ沿いの大通りを行進しました。あいにくの雨にも関わらず、通りには見物客で溢れ選手達を街全体で歓迎してくれているのがひしひしと伝わり感動しました。セレモニーは砂浜で行われ、クロトーネの民族舞踊が行われる頃、雨も上がり最後は虹までかかり選手達のテンションは最高潮に達し、大いに盛り上りました。

翌日から予選レースが始まり、風は十分強く初日は3レースを消化できましたが、予選レース2日目以降は更に風が上がり陸上待機をして夕方風が落ち始めた頃にレースを行いました。沖に出ると陸で感じた程の風はなく、緩い風の中ピッチの短い高さのあ

る波がセーリングを大変難しくしていました。

レース後のホテルでの生活ですが、イタリア料理のビュッフェとプールパーティー等のイベントで選手達は楽しんでいたようです。特に食後のスイーツが毎日違っていて大変美味しかったです。朝は出発前に冷えた水、サンドイッチと果物をバッグに詰め込んでもらいます。サンドイッチはチーズのみのものか、ハムとチーズのものから選べ、大会後半には3種類から選ぶ事も出来ました。またパンの質も良かったので選手から不満は出ませんでした。

2日目以降は陸上待機で長い時間待たされる事があり、サポートは積極的に通りに出て、現地ならではの美味しい果物や水、焼きたてのピザ等を調達して選手のコンディションを整えるようにしました。ハーバーの外にはお店が軒を連ねており、現地のSIMカードを購入できたりと非常に便利でした。選手達はこの時間を使って他の国の選手と交流し、物々交換等を進めましたが、日の丸ハチマキの人気は絶大で他国の選手を始め現地の若いスタッフもやってくる程でした。噂には聞いていましたが、本当にでした。

決勝シリーズが始まり、今回はゴールドフリートに残った選手はいませんでしたが、各選手それぞれのフリートでベストを尽くしてくれました。目標としていた順位には及ばなかったものの、異国でのハイレベルなレースで得た経験を次年度チャンスのある選手には次の目標として、今年度OPを卒業する選手は今後の艇種で活かせるのではないかと思いました。また、レースを通じて世界中の同じスポーツをする仲間と出会えた貴重な経験を今後の人生を歩む上でもいつか思い出してくれればと思います。

二次選考会後、二回の合宿を通して選手を団結させ、また大小様々なトラブルを乗り越え、選手達の為にベストを尽くした各家庭の御父兄、遠い日本から応援頂いた皆様、各選手をここまで大切に育てて頂いた各クラブの指導者の皆様、そしてぎりぎりまでIODAと交渉を重ねて頂いたJODAの皆様、大変ありがとうございました。

OPTIMIST NORTH AMERICAN CHAMPIONSHIP 2016 ：アンティグア・イングリッシュハーバー

2016年7月10日～18日

監督：桔川 裕司

【参加選手】

豊島有壯 (JPN3030 広島ベイディングークラブ、小6)、
重松 駿 (JPN3176 夢の島ヨットクラブ、小6)、
桔川翔太郎 (JPN3338 江の島ヨットクラブジュニア、中2)、
山田大夢 (JPN3171 海陽海洋クラブ、中3)

全員が初めてのナショナルチームとしての国際大会出場で、嬉しさの反面、不慣れな点や不安もありました。初顔合わせはゴールデンウィークの和歌山合宿となりましたが、小学生と中学生がうまくミックスした雰囲気のいいチームが出来ました。また、監督は桔川父、コーチは豊島父、そして重松母、山田母がサポーターとして同行することになりました。

北米選手権の開催場所は昨年と同じ、アンティグア・バーブーダ国。カリブ海に浮かぶアンティグア島南部にあるイングリッシュハーバーで、情報が不足していましたが、2015年北米チーム参加者から現地情報を沢山入手することができ、またJODAイヤブックやJODAホームページに掲載のレポートが参考になり、大変助かりました。

7月9日チームは成田空港に集合し、夕方のユナイテッド航空便で出発。約13時間のフライトで、ニューアーク空港近くのホテルに宿泊。翌10日朝、約4時間半のフライトでアンティグアに到着しました。到着日の夕刻から、参加チームによるパレードと開会式が行われました。今年の北米選手権には144選手（内、女子37選手）が参加。北米地域からは、10ヶ国・地域、北米以外では20ヶ国・地域が参加。パレードでは、各国のユニフォーム、国旗やその國らしさを現すアイテムが色とりどりで、開会式は地元のダンスやバンドのパフォーマンスがあり、カラフルな雰囲気で盛大に行われました。

翌7月11日は、朝から慌ただしく動きました。先ずチャーター艇（マクローリン社）、フォイルはN1

社、スパーはオプティパーツ社の何れも新品。昼食後1時過ぎに出艇、初めてレース海面に出ました。風が最大16ノット程度にも関わらず、貿易風による周期の長い大きなうねりが入ります。また、レース海面への風がアンティグア島をかすめて吹くため、地形の影響を受けています。プラクティスレースですが、スタートシグナル前に他国の艇は次々とラインを切って行く、またサイドマーク回航後多くの艇がハーバーに向かっていきました。そういうえば昨年の参加者からプラクティスレースは誰も本気を出さないとい聞いていたことを思い出し、こういうものかと納得。

さて、チームの宿舎ですが、選手、監督、コーチの宿舎は主催者手配で、ハーバーから歩いて15分程度にあるヨットクラブに併設されるホテルに1部屋3人で2部屋。母二人の宿泊は、ヨットクラブから徒歩数分の貸コンドミニアムを日本から予約しました。大会期間中の朝食と夕食は、毎日ヨットクラブ内のレストランで用意され、夕食は毎日メニューが変わって工夫されているが、決しておいしいとは言えず、日本から持参した味噌汁や韓国のりは口直しに重宝しました。海上昼食は、サンドイッチ、フルーツ、菓子が用意されますが、こちらもおいしいとは言えないもので、母にはレトルト米でおにぎりを作ってもらい、昼食の足しにしていました。

7月12日はフリートレース予選初日。レースは144人の選手がイエロー・ブルー・レッド3つのフリートに分かれて行います。風は前日より弱く、前日と比べさらに地形の影響を受けやすい非常にガスティなコンディション。日本チームは、風を読むことができず、苦戦を強いられ、初日3レースを終え最高順位は有壯の67位でした。

レース運営の面では、レース委員長より、うねりの高い海面で待機時間が長くなれば選手が疲労してしまうので、早くレースを回したい、そしてゼネリ

コは大嫌い、OCSの艇は徹底的にセール番号を読む、とのコメントがありました。また、コース設定については、島から離れると急激に水深が深くなるので、マークを打てる海面が限られているところで、大会期間中、マーク打ち直しは一度もありませんでした。こうしたレース運営もあり、風シフトと地形の影響を考えたコース取り、スタート前のルーチンをしっかり行い海面の情報収集をしっかり行うことが大会期間を通じての日本チームの課題となりました。

12日夜にはチームリーダー会議が行われ、域外参加国のチームリーダーも招待されたため桔川父が参加。2017年北米選手権開催地はまだ決定していないものの、カナダが立候補する予定とのことでした。2018年はメキシコが立候補、2019年はバミューダが立候補を考えているとのことでした。

7月13日はフリートレース予選2日目。風は前日より上がり12-14ノット。有壮がイエローフリートで7着となり幸先のいいスタートを切りました。しかし、全般的に日本チームはまだ風を読み切れていません。2日目が終わり有壮65位、翔太郎88位、駿89位、大夢が126位となりました。この時点になると他の選手の成績も気になるところ。総合1位のウルグアイ選手はポルトガルワールドで13位に入賞した選手で、恐らく参加選手の中で一番身長が高いと思われます。更に日本チームが注目したのは総合3位に着けているアメリカのステファン・ベーカー選手。この選手は、有壮、駿と同じ年で、チームで一番体重の少ない駿と変わらないか、少し小柄な体格です。しかし、体を大きく動かした船のコントロール、風の読みも的確です。中風域コンディションの中、体格の対照的な2人が上位を争っていることは、体格によっていい順位が取れると内心思っている日本チーム選手にとって技術的に上達する余地が大きいことを示します。

7月14日はチームレース。日本チームは、ネイショナルズ・カップ13チームと戦います。レースは、ファルマス湾内で行われ、島を越えて吹く風はガスティですが、平水面でヨットクラブからも近く、桟橋か

ら間近で観戦ができるため、チームレースには最適です。

日本チームは初戦ニュージーランドと対戦しますが、連携プレーが発揮できず敗退。敗者復活でチリBチームと対戦、最終レグまで劣勢でしたが、翔太郎が囮となって相手を何艇か引き寄せ、カバーのためタック合戦をする傍らで、大夢がノーマークとなりうまく風をつかみワンタックでフィニッシュに入りチーム初勝利となりました。次はペルー戦、日本チームはスタートがもたつき、ペルーに先行逃げ切りを許してしまい、敗退しました。

7月15日は予備日。日本チームは大会主催者側でアレンジした「エイ」ツアーに参加しました。モーターボートで沖にある浅瀬に移動した場所で、幅が1.5メートル程のエイがたくさん近寄ってきて、直接触れたり、記念撮影することができます。とても貴重な経験ができました。午後には首都のセントジョーンズに出かけて、地元の人一番のお勧めのカリブ風のレストランで食事をし、その後、お土産を買いました。

7月16日はフリートレース予選最終日。コンディションは2日目と同じようなコンディション。選手たちはこれまでのレースと豊島コーチからのアドバイスを振り返りながら全力を尽しましたが、結果がついてきません。予選7レースを終え、有壮はブルーフリート。前日まではブルーフリートに入る順位だった翔太郎と駿は順位を落とし、大夢と共にレッドフリートへ。夕食前に豊島コーチより上位選手のスタートポジションを参考にしながら、風が振れている場合のスタート戦略や、上マークへのアプローチをホワイトボードに図を書きながら詳細に解説し、最終日のレースに備えました。

7月17日はフリートレース決勝で大会最終日。ブルーフリートの有壮は、1レース目スタートで出遅れ苦しい展開に、その後も挽回できず41位でフィニッシュ。2レース目、3レース目はそれぞれ33位、16位と順位を上げましたが、最終的にブルーフリートで38位（総合86位）でした

レッドフリートの翔太郎、駿、大夢も全力を尽く

しますが、1レース目で駿が上位でフィニッシュするも、海上計測でブラックバンドの違反となってしましました。また2レース目では準備信号U旗で翔太郎がOCSとなりました。大夢は中風域でのポートコントロールを工夫し艇速アップに励みました。最終的にレッドフリートで翔太郎5位（総合101位）、駿7位（総合103位）、大夢30位（総合126位）となりました。

最終日に閉会式が行われました。総合優勝は長身のウルグアイの選手、また北米選手権優勝は総合2位の米国のステファン選手でした。閉会式後、選手たちは他国選手と交流しつつ、記念品交換を積極的に行いました。日本から持参したハチマキは大変な人気でした。オーストラリアでは、日本のハチマキを持っているのはオプティミストで国際大会に出た証で、選手達の誇りと自慢となっており、OP卒業後他のクラスに乗っても愛用し続ける選手がいるのだそ

うです。母2人は、ゆかたを着て大人気、多くの国の関係者と記念撮影をしました。

翌7月18日の公式出発日に最後のミーティングを開きました。今大会を各選手が振り返り、反省点や課題、今後の目標をノートに書き出しました。そして、一人一人発表の後、目標達成を4選手間の約束とし、3か月後、半年後、1年後に会った時にはお互いに達成度合いを確認し合い、励ましあうことを誓いました。

最後に、今回は4選手とも初めてのナショナルチームとしての国際大会参加であり、役員、サポーターを含め、非常に良い経験となりました。今後長く続くセーリング競技での選手の成長に必ず役立つと思います。このような貴重な経験ができたのは、JODA、所属クラブその他多くの方々の多大なる支援のお陰です。心から感謝申し上げます。

OPTIMIST ASIAN & OCEANIAN CHAMPIONSHIP 2016 : Trincomalee, Sri Lanka (スリランカ・トリンコマリー)

2016年5月28日～6月5日

監督：須田 淳

5月26日の朝に成田空港に集合して出発した。スリランカへの直行便はスリランカ航空の成田ーコロンボ便のみで、週4便となっている。約9時間のフライトで夕方、コロンボに到着。空港を出た瞬間に一同が口にした言葉は「暑い！」であった。そう、ここは熱帯である。

スリランカの旅行経験を持つ保護者は皆無だったので、日本の旅行代理店を通じて日本語の話せるガイド付きでバスをチャーターした。これが大正解で、途中の食事や休憩、買い物など、ガイドのおじさん（千葉県に語学留学していた経験あり）がすべて手配、案内してくれ、道中を安心して過ごすことができた。途中、世界遺産のダンブッラの石窟寺院（世界遺産）に立ち寄り、昼過ぎに会場に到着した。

会場は立派なりゾートホテルであったが、ホテルの敷地を一歩出ると、スリランカの一般庶民の暮らしの場所でそのギャップに驚いた。サポーターの宿泊は別申込みでかなり割高になる。当初は徒歩圏内の近隣のホテルにしようかと迷ったが全員同じホテルにして良かった。この日は大会受付を済ませ、翌日に備えて早めに就寝した。

翌朝（公式到着日の5月28日）、朝一番でチャーター艇（FAR EAST社製）を受け取り、儀装を行った。スリランカの日中の熱さは半端ではなく、10～20分作業するだけでフラフラになる。木陰を選んで作業をしたが、休憩、水分を取りながらの作業となり、予想以上に時間がかかった。今回の大会は、セーリング技術以前に、体調を維持し、体力勝負となる予感がした。

計測の予約を行っていたので、計測所がオープンして2番目に計測を受けることができた。最初に計測委員長から選手全員への注意事項の説明があった。

計測が終了したので、支援艇を受け取って練習に出ようとしたのだが、担当者（チャーター艇と共に

通）が見つからず、1時間ほど待つことになってしまった。やっと支援艇を受け取り、午後から儀装や船の確認を兼ねて全員で練習に出た。宿泊棟の目の前に大きなプールがあったので、儀装作業をしていて暑いと感じたとき、海から上がってきたらすぐにプールに入って体を冷やすように選手に指示した。これ以降、日々のレース終了直後のミーティングは、プールにつかりながら、ということになった。

翌日は、プラクティスレース。プラクティスレースは日本のそれとは異なり、むしろ運営側の段取り確認と参加者は運営方法の確認という目的で、レース自体が最後まで行われなかった。マークの位置などは分かったので、それに合わせて帆走練習などを行った。その日の夜には開会式のセレモニーがあり、国旗をもっての入場式や、スリランカ伝統舞踊の披露などがあった。

翌日からレースが始まった。支援艇は2ヶ国でシェアとなっており、日本はタイとのシェアとなった。タイと日本は友好的な関係にあるのだが、それぞれ選手が10名で、計20名のケアをしなければならず厳しかった。少ない場合は2ヶ国、あるいは3ヶ国で14名程度の支援艇もあった。エントリーフォームに支援艇のシェアを希望する国を書く欄があった。今回は空欄で出したが、よく考える必要があるかも知れない。

比較的強い風が吹き、レースは順調に進んだ。国際大会なので、ダントツにうまい選手と一緒に走る機会を得たことは選手にとって貴重な経験になった。選手達が口を揃えてすごいと言っていたのはトルコのTUR7777で、フリーを驚くべきスピードで毎レースごぼう抜きをしていた。

レースはトラッキングシステム(TracTrac)が採用されていた。10分程度の遅れはあるが、レースの状況がほぼリアルタイムで配信される。選手達のフリートレースの奮闘のおかげで、日本はチームレース2枚

を確保できた。

レースは順調に進み、予備日は休息日となった。父母でいろいろ相談して、無人島シユノーケリングツアに行くことにした。ただ、疲れている選手や父母もいたので、任意参加とし、体調に少しでも不安のある人はホテルでのんびり過ごすようにした。美しい海で、魚やサメ（危険はない）が回遊する様子を見ることができ、楽しい思い出になった。午後はホテルでのんびり過ごすこととした。プールでは台湾の選手と水泳競争をするなど、選手達は徐々に他の国の選手と交流するようになってきた。

2日間のレースで5レースが成立し、フリート分けが発表された。ゴールドフリートに7人が入り、惜しくもシルバーフリートになった3人もシルバー入賞が狙えるポジションで最終シリーズを迎えた。最終日、選手達は各自が各自の置かれた状況のもとでできる最大限のことをやってくれたと思う。

心地よい開放感に包まれて、閉会式が行われた。シルバー入賞の二人が国旗を持って表彰に立ったときは、日本チームから歓声が上がった。食事が一段落すると、恒例のTシャツ交換である。名前を交換して次の国際大会で会うことを約束し、その記念にTシャツなどを交換するのが本来だと思うのだが、交換が主目的になっている感もある。

今回、監督としては選手と同行者の安全、そしてトラブルなく全選手が全レースに出場できることを最優先に取り組んだ。監督から選手達に、①あらゆる場面で日本を代表選手としてはずかしくない行動をする、②時間を守って行動する、という2点をお願いした。選手達はしっかりやってくれたと思う。

今回の海外遠征で選手達はいろいろ思うところがあると思う。アジアのトップクラスに食い込めそう

な手応えをつかんだ選手、目標としていた順位には及ばなかったが十分な風で自分としてできる精一杯を出せた選手、体調がすぐれず実力を出し切れなかつた選手。この経験を、今後のセーリング、そして人生に生かしてもらうことが、父母の願いである。

最後に、今回の遠征を支え、応援して下さったOP協会のみなさま、選手の各所属クラブのみなさまをはじめ全ての方に、選手、保護者を代表して心から感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

最終成績

15ヶ国112艇（男子60名、女子42名）

ゴールドフリート

JPN2979 安永 昂生19位、JPN3269 須田 英実子30位、JPN3281 大槻 多恵美35位、JPN3242 谷口 美羽43位、JPN3251 長谷川 真大44位、JPN2987 中川 大成47位、JPN3317 元尾 帆斗 56位

シルバーフリート

JPN3283 小菅 楓2位（シルバー2位入賞、シルバー女子1位入賞）、JPN3239 北原 頌子8位（シルバー女子2位入賞）、PN3270 磯辺 壱心 15位

チームレース

JPN1 英実子、真大、楓、頌子、壹心
対タイ→負、香港→勝、対オーストラリア2→負
JPN2 昂生、多恵美、美羽、大成、帆斗
対シンガポール2→負、対台湾→勝、対ニュージーランド→負

● 2016年 JODAナショナルチーム最終選考会

2016年1月8日～11日 浜名湖・静岡県立三ヶ日青年の家

【OPクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	菅澤 龍佑	江の島ヨットクラブジュニア	3288	8	男
2	内貴航路朗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3320	8	男
3	抜井 理紗	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3115	8	女
4	前田 海陽	広島セーリングスクール	3145	8	男
5	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
6	佐々木マールトン星和	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	2948	8	男
7	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3110	6	男
8	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
9	小林 奏	宮津ジュニアヨットクラブ	3342	8	女
10	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	6	男
11	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部	3242	8	女
12	豊島 有壮	広島ペイDC	3030	5	男
13	北原 頌子	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3239	5	女
14	大槻多恵美	B&G松山海洋クラブ	3281	7	女
15	元尾 帆斗	B&G時津海洋クラブ	3317	6	男
16	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	2979	6	男
17	磯辺 壱心	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	6	男
18	小菅 楓	広島セーリングスクール	3142	7	女
19	須田英実子	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3269	8	女
20	中川 大成	海陽海洋クラブ	2987	8	男
21	長谷川真大	B&G高松海洋クラブ	3251	8	男
22	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	5	男
23	桔川翔太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3338	7	男
24	山田 大夢	海陽海洋クラブ	3171	8	男
25	藤村 勇斗	B&G高松海洋クラブ	3275	7	男
26	西澤 佳菜	北九州ジュニアヨットクラブ	3268	6	女
27	バーキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
28	夏秋 理美	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3240	6	女
29	河野 大陸	B&G別府海洋クラブ	3107	6	男
30	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3246	7	男
31	濱田 登羽	北九州ジュニアヨットクラブ	3330	6	男
32	古川 悠航	横浜ジュニアヨットクラブ	3109	7	男
33	木村 百花	江の島ヨットクラブジュニア	3164	8	女
34	鈴木 萌風	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3086	8	女
35	青山 知央	葉山町セーリング協会	3168	6	女
36	宇田川涼太郎	横浜ジュニアヨットクラブ	3112	6	男
37	上西理久哉	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3271	8	男
38	高山巧太郎	海陽海洋クラブ	3260	7	男
39	須永 笑顔	YMFSジュニアヨットスクール葉山	3301	7	女
40	河野 瑶平	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3023	7	男



● 2015年 秋風ヨットレース

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	菅澤 龍佑	江の島ヨットクラブジュニア	3288	8	男
2	蓮 千鶴	江の島ヨットクラブジュニア	3334	9	女
3	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	6	男
4	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
5	須田英実子	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3269	8	女
6	バーキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
7	須河内陽夏	藤沢市青少年セーリングクラブ	3057	7	女
8	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	5	男
9	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3246	7	男
10	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部	3242	8	女



2015年9月13日 江の島ヨットハーバーおよび沖海面

今年で開催4回目となる秋風ヨットレース。関東のクラブに加え、遠く関西方面からは宮津ジュニアヨットクラブ、琵琶湖ジュニアヨットクラブ、真野浜セーリングクラブからエントリーがあり、参加艇数、Aクラス67艇、Bクラス25艇となりました。レース前は強風予報の中、Aクラスの選手の中でも出艇できない選手が出ることが予想されましたが、最終的に全67艇が出艇、Bクラスは陸上待機でのスタートとなりました。江ノ島沖 A 海面、風向 220° ~ 230°、5~8m/sの風が安定して吹き続け、A クラスは3 レース、B クラスは1 レースを実施することができました。A クラス優勝は1-2-1 と安定した成績で江の島ヨットクラブジュニアの菅澤龍佑選手が見事優勝。OPB クラスは小学4 年生の藤沢市青少年セーリングクラブの山本育生選手が安定したセーリングで優勝しました。



● 2015年 第29回 小沢吉太郎記念少年少女ヨット大会

2015年10月11日~12日 江の島ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	菅澤 龍佑	江の島ヨットクラブジュニア	3288	8	男
2	蓮 千鶴	江の島ヨットクラブジュニア	3334	9	女
3	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	6	男
4	抜井 理紗	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3115	8	女
5	バーキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
6	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
7	桐井 航汰	江の島ヨットクラブジュニア	3020	9	男
8	内貴航路朗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3320	8	男
9	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
10	三浦 凪砂	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	2877	9	女



2015年全日本選手権の約1ヶ月前に行なわれた本大会は、江の島での全日本選手権会場の下見と実力確認を目的に参加している選手も多く、東北～関西の計17クラブ101名（A、Bクラス合計）が参加する盛大なレガッタとなりました。1日目は出艇前から7~8m/sのうなりを伴う南風が入っており、午後にかけて徐々に風が上がっていくという予報となっていたが、午後にはノーレースとなる見込みのためAクラスBクラス共に定刻通り出艇させることとしました。定置網を回避するため、コース設定が変則的になり時間を要したがAクラス2レース、Bクラス1レースを行なうことが出来ました。（なお、Bクラスは安全重視で上下コースへ変更しています）Aクラスは全日本の先を意識したレベルの高い選手によるレース展開が見られたが、3レースの1レグ目に最大風速が15m/sを超えたため参加艇全体のレベルを考慮しノーレース（ハーバーバック）としました。Bクラスは1レースのみを行い、10m/sを超えるまえに安全に配慮しハーバーバックされることになりました。2日目は1日目とあって変わってなかなか風が上がってこず、海上にて2時間程度の風待ちが余儀なくされました。昼前によく風が安定し、200~220°で3~4m/sの微風で2本のレースを行なうことが出来ました。2日間に亘り、あらゆるコンディションでのレースだったため、選手にはとてもハードだったと思いますが、表彰式が終わった後の子供達の笑顔はそれぞれが満足のいく収穫が得られたように見えました。運営面では各クラブ支援艇のサポートもあり事故もなく安全に行なうことができました。ありがとうございます。

● 2015 第3回 がまごおり海と風レース

2015年10月18日 豊田織機海陽ヨットハーバー

【ゴールドクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3110	6	男
2	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	6	男
3	倉橋 直暉	海陽海洋クラブ	3226	9	男
4	磯辺 壱心	B & G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	6	男
5	玉山 義規	丸玉セーリングクラブ	3257	9	男
6	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
7	菅野 韶	夢の島ヨットクラブ	3184	5	男
8	北原 頌子	B & G兵庫ジュニア海洋クラブ	3239	5	女
9	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	5	男
10	鈴木 海翔	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3116	5	男

今年で3回目の「がまごおり海と風レース」。江の島の全日本大会が1か月後に控えていることもあり、蒲郡の強い風を求めて、ゴールド、シルバー、ブロンズ総勢74名が集まりました。あいにく当日は、2~3m程度の軽風でしたが、無事4レースを消化することが出来、ゴールドクラス優勝は、見事、3日後にアジア選手権出発を控えた真野浜セーリングの嶋倉選手が獲得しました。今回は「どのようなレベルの選手も参加が可能なレース」をコンセプトに3クラスにフリートをわけ、初心者からナショナルチームまで選手の技量に応じたレースを楽しく・真剣に行うことが出来ました。



● 2015 琵琶湖ユースレガッタ秋季大会

2015年10月24日~25日 滋賀県立柳ヶ崎ヨットハーバー

【OP級】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	倉橋 直暉	海陽海洋クラブ	3226	9	男
2	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
3	小林 奏	宮津ジュニアヨットクラブ	3342	8	女
4	磯辺 壱心	B & G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	6	男
5	高山巧太郎	海陽海洋クラブ	3260	7	男
6	上西理久哉	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3271	8	男
7	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部	3242	8	女
8	鈴木 萌風	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3086	8	女
9	藤原 光希	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	2805	8	男
10	森 皇翔	B & G兵庫ジュニア海洋クラブ	2790	6	男



当初AB混合レースを予定していたが、参加者が多かった為、A・B分けての開催に変更し実施した。

開会式後の艇長会議にて、公示・帆走指示書の変更点を解り易く説明することで周知徹底することができた。

初日は朝から気温も高く(最高気温24°C)無風の為陸上待機、昼からAB共軽風で3レース実施できた。

2日目は朝から北風で風向は安定していたが4m/s前後の中でブローは10m/s以上というコンディションの為、Bのみ陸上待機とし、Aのみ実施しながらBのレースを開催できるコンディションにまで安定するのを待った。結果Aは予定の5レースを消化でき、Bは1レースのみとなり、2日間でAは全8レース、Bは4レースの実施となった。2日間で琵琶湖の風の変化に富んだレースを経験し選手も自分の課題を日々に再発見できた大会になったと考える。また、AB分けて実施したことで効率良くレース運営ができ選手も喜んでくれたことは運営としても嬉しいことであった。

● 第11回 坊ちゃんカップジュニア・ヨット大会

2015年12月5日～6日 愛媛県新居浜市 マリンパーク新居浜

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	長谷川真大	B&G高松海洋クラブ	3251	8	男
2	前田 海陽	広島セーリングスクール	3344	8	男
3	大槻多恵美	B&G松山海洋クラブ	3281	7	女
4	児島 緋音	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3029	7	女
5	藤村 拓斗	B&G高松海洋クラブ	3250	7	男
6	豊島 有壮	広島ベイディングクラブ	3030	5	男
7	藤村 勇斗	B&G高松海洋クラブ	3275	7	男
8	橋本 歩波	広島セーリングスクール	3141	7	女
9	鶴本 優士	B&G高松海洋クラブ	3253	6	男
10	橋口 洋人	鹿児島ジュニアヨットクラブ	2819	7	男



第11回坊っちゃんカップは、OP級Aクラス21艇、Bクラス26艇、Cクラス11艇、レーザー4.7クラス7艇、420級4艇のエントリーで開催しました。風が吹かなくて潮が速いことで有名な新居浜ですが、大会初日は期待を大きく裏切り10～20ノットの風と波高2mに翻弄され、Aクラスに上がったばかりの選手やBクラスの選手には、試練となりました。Aクラスは3レース実施し、B&G高松の長谷川真大選手が2-2-1と安定したスコアで初日をリードしました。Bクラスは風が落ち始めてから出艇し1レースを実施しました。一方砂浜では、Cクラスが11レースを実施しました。大会2日目は、いつもの新居浜に戻ってしまい、1レースのみの実施となりました。Aクラスは最後まで安定した成績の長谷川真大選手が優勝し、広島セーリングスクールの前田海陽選手の4連覇を阻止しました。BクラスはB&G兵庫ジュニアの出来建選手が優勝しました。Cクラスは2日間で22レース実施し、B&G福岡ジュニアの久保田結花選手が優勝しました。

● 2015 ジュニア・ユースクリスマスカップ

2015年12月19日～20日 江の島ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	菅澤 龍佑	江の島ヨットクラブジュニア	3288	8	男
2	内貴航路朗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3320	8	男
3	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
4	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部	3242	8	女
5	青山 知央	葉山町セーリング協会	3168	6	女
6	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3110	6	男
7	バキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
8	古川 悠航	横浜ジュニアヨットクラブ	3109	7	男
9	木村 百花	江の島ヨットクラブジュニア	3164	8	女
10	三浦 帆香	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	3155	6	女



ジュニアユースクリスマスカップは、年末の江の島で、ジュニアやユースが乗る艇種を集めて毎年開催されています。今回はレーザーラジアル、レーザー4.7、FJ、420、OPの各艇種で総艇数146艇、197選手の参加がありました。

レースは19日の強風、20日の微風の2日間行われ、OP-Aクラスは46艇4レース、OP-Bクラスは32艇2レースで激戦が繰り広げられました。2日間ともシフティな北風の中、選手は苦労しつつ、少しでも上位を目指して戦っていました。寒い中、お疲れ様でした！

Aクラス上位入賞者

菅澤 龍佑 (江の島)
内貴 航路朗 (横浜市民)
服部 陸太 (江の島)

Bクラス上位入賞者

上田 瑞 (葉山町)
重松 陽 (夢の島)
宮本 あかり (夢の島)

● 2016光ゴアテックスニューイヤーレガッタ

2016年1月10日～11日 山口県スポーツ交流村 ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	岡田 爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ	2943	6	男
2	幸野 翔太	B&G別府海洋クラブ	3325	5	男
3	鶴本 優士	B&G高松海洋クラブ	3253	6	男
4	児島 緋音	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3029	7	女
5	苗床隆之介	北九州ジュニアヨットクラブ	3189	4	男
6	上園田心太郎	B&G別府海洋クラブ	3032	6	男
7	藤村 拓斗	B&G高松海洋クラブ	3250	7	男
8	吉川野乃香	広島セーリングスクール	3272	8	女
9	向井真太郎	広島セーリングスクール	2942	5	男
10	尾道 葵音	B&G時津海洋クラブ	3256	8	女



1月9日は、プラクティスレースを実施、1月10日に順風から強風コンディションで4レース、1月11日は軽風コンディションで4レースを実施した。1月10日の第3レースではB&G別府海洋クラブの神取選手がレース中に、艇から離れたBクラスの選手を救助活動を行った。その行いに対しレース委員会から救済が与えられ、また、レース委員長特別賞が与えられた。また今年も婦人会のボランティアによる昼食のうどんが2日間にわたりふるまわれた。



● 2015年度 強化合同フリートレース 江の島ミッドワインターレガッタ

2016年1月17日 江の島ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
2	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
3	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	5	男
4	服部 輝海	江の島ヨットクラブジュニア	3120	5	男
5	鈴木 海翔	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3116	5	男
6	桔川翔太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3338	7	男
7	パーキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
8	青木 武斗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	2887	8	男
9	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3246	7	男
10	藤森佑太郎	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	3130	6	女



2016年に入って初のレースはこのミッドワインターレガッタから始まります。去年まで一緒にレースをしていた中学3年生が居なくなりちょっと寂しい感じもしますが、冬の冷たい北風の中でたくさん練習をしてきた元気な選手たちでハーバーは賑わいました。

Aクラスは中2：6名、中1：8名、小6：10名、小5：13名、小4：4名の計41名がエントリーし、国内トップクラスの選手から今年初めて全日本選手権を目指す選手まで日頃の成果を試すことが出来たのではないかと思います。BクラスにもAクラスと同じトラベゾイドコースを帆走してもらいましたが、さすが冬を乗り越えてきた選手は元気いっぱいでたくましく、Aクラスに負けじとハイクアウトをしながらきちんと完走してくれました。風は4～5m/sと安定しており、稲村ガ崎沖特有の左右に20度以上振れるシフトと陸ベンドにしっかりと合わせてコース取りを出来た選手が上位を占めていました。レースは予定していた4レースを全て消化することができました、3レース目、Aクラスではゼネリコが2回続きました。江の島沖の北東風はスタートラインの見通し線が江の島灯台近くにくるため取りやすいのですが、寒さと緊張のせいか正確にラインに留まることが出来なかった選手が多数居ました。これから各クラブでの練習やレースでの経験を積みながら、もっと大きな大会で選手それぞれが一番気持ちいいスタートが切れるように練習していきましょう。参加してくれた選手、サポート下さった各クラブのコーチ・監督・父母様、また運営協力頂いた方々、ありがとうございました。

● 2016年 九州ウインターカップ選手権大会

2016年2月6日～7日 鹿児島県平川ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	豊島 有壮	広島ベイディンギークラブ	3030	5	男
2	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	2979	6	男
3	河野 瑠平	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3023	7	男
4	夏秋 理美	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3240	6	女
5	木下 翔暉	B&G時津海洋クラブ	3318	8	男
6	橋口 洋人	鹿児島ジュニアヨットクラブ	2819	7	男
7	河野 大陸	B&G別府海洋クラブ	3107	6	男
8	苗床隆之介	北九州ジュニアヨットクラブ	3189	4	男
9	小窪 健斗	鹿児島ジュニアヨットクラブ	3042	5	男
10	阿南 景綱	熊本ジュニアヨットクラブ	2786	5	男



大会初日は第1レースが始まるころには5～6m/sほどの風だったが、レースが進むにつれて風速が上がり8～9m/sの中でレースを行った。OPBクラスは同じ海面でレースを行っていたが、1レース終了後危険を感じ一度ハーバーへ帰着したのち、近くの海面で行うように対応したが、1レースのみの実施となった。OPAクラスの選手はマックス13m/sの風の中で合計3レース行った。2日目は平均～3～4mの風の中レースを行っていたが、風向の変化が大きく、リミット時間より前にAPIとなり、OPAクラスは2レース、OPBクラスは3レース実施した。



● 第15回 夢の島レガッタ

2016年2月7日 若洲ヨット訓練所

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	6	男
2	望月翔太郎	千葉ヨットビルダーズクラブ	3154	5	男
3	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリングクラブ	3242	8	女
4	柴田 伶大	KMC横浜ジュニアヨットクラブ	3231	8	男
5	寺岡 志保	KMC横浜ジュニアヨットクラブ	3228	7	女
6	中村迅之介	KMC横浜ジュニアヨットクラブ	2981	8	男
7	渡辺 信幸	江東区立小中学校セーリングクラブ	3284	6	男
8	佐藤 真心	千葉ヨットビルダーズクラブ	3227	6	女
9	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	5	男
10	三浦 帆香	千葉ヨットビルダーズクラブ	3155	6	女



第15回夢の島レガッタは、東京スカイツリー、東京タワー、東京ディズニーリゾート、東京ゲートブリッジ、富士山等を見ながらレースが出来る若洲ヨット訓練所で開催。レース前日には渡邊哲雄氏（元OP全日本チャンピオン、2015年スナイプ全日本チャンピオン）によるレースクリニックを開催することでレースの組み立て方を学び、翌日のレース本番に挑むことが出来ました。レース当日はAクラス23艇、Bクラス8艇が参加。朝の時点では8mを超えていたためBクラスは出艇を見合わせ、Aクラスのみ出艇。風軸0° ± 10°、平均風速8m/s以上と安定した気象条件であったため、順調に予定していた4レースをスムーズに消化することができました。1、2レース目は強風慣れしていない選手もありDNFが出ていたため、体力の心配もありましたが平均11m/sとなった最終レースではトップ艇とラスト艇の差が5分台にまで縮まる等レース毎に選手の成長が見られる大会となりました。Bクラスは昼前まで様子を見ましたが、風が落ないため湾内でのレースに変更。短いコースながらも6レースを実施し、最初は不安顔だった選手の顔も、レースを重ねるたびに自信に満ちあふれた顔つきになってきましたので、今後の成長が楽しみです。

● 2016年 冬風ヨットレース

2016年2月21日 江の島ヨットハーバーおよび沖海面

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	菅澤 龍佑	江の島ヨットクラブジュニア	3288	8	男
2	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3246	7	男
3	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
4	青木 武斗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	2887	8	男
5	バーキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
6	小林 志津	横浜ジュニアヨットクラブ	3068	7	女
7	増本 晴	藤沢市青少年セーリングクラブ	3343	6	女
8	杉浦ふう華	海陽海洋クラブ	3238	5	女
9	山田真理歩	YMFSジュニアヨットスクール葉山	3296	6	男
10	古川 悠航	横浜ジュニアヨットクラブ	3109	7	男



今年で開催4回目となる冬風ヨットレース。参加艇数、Aクラス45艇、Bクラス24艇となりました。レース前日の予報ではかなりの強風予報となっておりましたが、レース日は予報ほどの風も無く、前日の強風で残った強いうねりが有りましたが、Aクラスの選手の45艇全員が出艇。Bクラスは陸上待機でのスタートとなりました。江ノ島沖A海面、風向80°～100°、4～8m/sの風が多少振れてはおりましたが安定して吹き続け、うねり、波は強い状態、ブローも風の強弱が強い海面。数人船酔いする選手もおりましたが、選手は波、うねりに合わせてヘビーコンディションの中フェアにレースを行っておりました。Aクラスは3レース、Bクラスは1レースを実施することができました。Aクラス優勝は1-3-1と安定した成績で江の島ヨットクラブジュニアの菅澤龍佑選手が見事優勝。OPBクラスは小学4年生の夢の島クラブの宮本あかり選手が安定したセーリングで優勝しました。

● 2015年度 強化合同レース 江の島アーリースプリングレガッタ

2016年3月6日 江の島ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	内貴航路朗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3320	8	男
2	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	6	男
3	桔川翔太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3338	7	男
4	菅澤 龍佑	江の島ヨットクラブジュニア	3288	8	男
5	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
6	和知健太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3201	5	男
7	杉浦ふう華	海陽海洋クラブ	3238	5	女
8	バーキンス 花	江の島ヨットクラブジュニア	3125	8	女
9	山田真理歩	YMFSジュニアヨットスクール葉山	3296	6	男
10	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部(チーム江東)	3242	8	女
11	岩永 燐汰	海陽海洋クラブ	3226	4	男
12	服部 輝海	江の島ヨットクラブジュニア	3120	5	男
13	黒田研一郎	江の島ヨットクラブジュニア	3149	6	男
14	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3246	7	男
15	岡田 爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ	2943	6	男
16	木村 百花	江の島ヨットクラブジュニア	3164	8	女
17	中島 優香	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3220	6	女
18	佐藤 真心	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	3227	6	女
19	須永 笑顔	YMFSジュニアヨットスクール葉山	3301	7	女
20	増本 晴	藤沢市青少年セーリングクラブ	3343	6	女



● 第24回 YMFSセーリング・チャレンジカップIN浜名湖

2016年3月25日～27日 静岡県立三ヶ日青年の家

【OPクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3174	7	男
2	佐々木マールトン星和	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	2948	8	男
3	前田 海陽	広島県セーリング連盟	3344	8	男
4	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	2979	6	男
5	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3110	6	男
6	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	3294	7	男
7	磯辺 壱心	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	6	男
8	桔川翔太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3338	7	男
9	中村 晃	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3158	4	男
10	小林 奏	宮津ジュニアヨットクラブ	3342	8	女



大会期間中は、強風から微風までのコンディションで6レースを実施する。本年1月の海外遠征選考会に参加した選手も浜名湖の風に魅せられ参加する選手が多く見かけられた。初日の強風からトップレベルの選手は、実力を出せたレースとなつた。昨年は、上位を女子セイラーが独占したが、今回は、男子選手の活躍が見られ、成績通り国内トップレベルの選手が上位を獲得した。コースは、初級も同海面で実施したこと、上級、初級を別けてトライアングルコースを設定。レース後に実施した勉強会を含め、全国から集う各クラブの選手、保護者及び指導者にも情報交換の場として、交流も活発に行なわれた大会であった。
(上級37隻、初級22隻 合計59隻参加)

● 2016 MAIN STAGE 兵庫ジュニアオーブン選手権

2016年4月9日～10日 兵庫県立海洋体育館

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3110	7	男
2	抜井 理紗	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3115	9	女
3	磯辺 壱心	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	7	男
4	小菅 楓	広島セーリングスクール	3283	8	女
5	小林 奏	宮津ジュニアヨットクラブ	3342	9	女
6	岩永 燐太	海陽海洋クラブ	3226	5	男
7	佐々木マールトン星和	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	2948	9	男
8	大槻多恵美	B&G松山海洋クラブ	3281	8	女
9	北原 頌子	江の島ヨットクラブジュニア	3239	6	女
10	前田 月里	広島セーリングスクール	3145	6	女

天候は2日共に曇り。4/9のレースは風速3～4m 風向205°～230° スタートからフィニッシュまで平均1時間弱ぐらいで4レースの実施。4/10のレースは1～3mの風速 風向200°～230°。スタートからフィニッシュまで平均1時間弱で3レースの実施。

風は微風～軽風に変わった風で潮の流れがきつい2日間で上マーク回航時にマークタッチする選手が多々見受けられた。レース最中は微風のせいもあってか規則42違反が目立った。NTの選手が大勢参加しており2日間共レベルの高いレースを行われました。



● 2016年第15回ノルウェーフレンドシップヨットレース

2016年4月16日～17日 江の島ヨットハーバー

【OPクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	7	男
2	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3351	8	男
3	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	6	男
4	桔川翔太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3338	8	男
5	服部 輝海	江の島ヨットクラブジュニア	3120	6	男
6	黒田研一郎	江の島ヨットクラブジュニア	3149	7	男
7	増本 晴	藤沢市青少年セーリングクラブ	3343	7	女
8	岡田 爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ	2943	7	男
9	谷口 美羽	江東区立小中学校セーリング部	3242	9	女
10	中川 大成	海陽海洋クラブ	2987	9	男



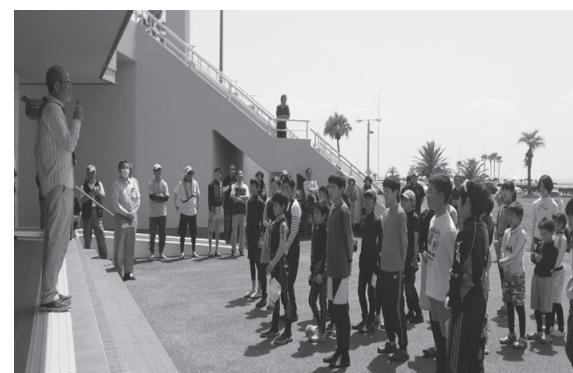
4月16日、17日の二日間にわたり、江ノ島ヨットハーバーにて「第15回ノルウェーフレンドシップヨットレース」が開催されました。日本とノルウェーの友好記念レースとしての本大会はディンギー、クルーザーなど多くの部門で競われ、OP部門もAクラス45艇、Bクラス12艇が参加し開催されました。天気予報では大荒れが予測され準備段階から開催が危ぶまれる状況の中、万全の安全サポート体制で臨みました。1日目、予報に反して風は上がらず3～6ノットの北風が吹き続けなかなか予報の南風が入ってこない状況。北風が残っているうちにレースを試みるも、スタート後風が弱まりノーレースに。その後再度北東の風の中レースを実施。風がみるみる落ちて2マークにてS旗掲揚のコース短縮となりました。その後一旦陸に上がり南に風が変わってからの出艇となりました。空には雲がかかり160度方向からコンスタントに良い風が入っている中で3レースが開催されました。風は8～10ノットが吹き、この後3レースを消化することができました。2日目は朝から荒天が予測され朝の時点で既に20ノット以上が吹きBクラスは中止。Aクラスについては走れる選手のみ出場し沖はうねりが高いので湾内でのコース設定として運営艇が出艇するものの、更に風が吹き上がりレースの実施は中止を決定。空いた時間でシーマンシップセミナーが開催され、海上には出れない状況の中で座学が行われました。

● 2016 スプリングジュニアカップ

2016年4月23日～24日 海陽ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	岩永 燐汰	海陽海洋クラブ	3226	5	男
2	豊島 有壮	広島ベイディンギークラブ	3030	6	男
3	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	6	男
4	中川 大成	海陽海洋クラブ	2987	9	男
5	高橋果乃子	海陽海洋クラブ	3347	7	女
6	高山巧太郎	海陽海洋クラブ	3260	8	男
7	市川 太陽	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	2902	7	男
8	児島 緋音	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3029	8	女
9	森 皇翔	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3163	7	男
10	森 美遙	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3311	6	女



参加クラブ8クラブ、Aクラス20名、Bクラス8名の参加で、レースを開催した。2日間で、6レースを行ったが、天候は晴れで、風速3～4m/sの状況であった。東京、静岡、愛知、三重、兵庫、広島から参加があり、選手同士の交流も深められるレースとなった。

● 第61回 関東水域OP連絡会OP級オープンヨットレース大会

2016年4月29日 江の島ヨットハーバー

【ゴールドフリート】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	服部 輝海	江の島ヨットクラブジュニア	3120	6	男
2	鈴木 海翔	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3116	6	男
3	高山巧太郎	海陽海洋クラブ	3260	8	男
4	葉山カトル	横浜ジュニアヨットクラブ	3117	6	女
5	菅野 韶	夢の島ヨットクラブ	3184	6	男
6	中島 優輝	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3246	8	男
7	増本 晴	藤沢市青少年セーリングクラブ	3343	7	女
8	鷺尾 青	江の島ヨットクラブジュニア	2911	7	女
9	芝田 豊栄	江の島ヨットクラブジュニア	3209	5	男
10	黒田研一郎	江の島ヨットクラブジュニア	3149	7	男



ここ数年は葉山で実施していた当レースは、インカレの影響で江ノ島にて開催。NT合宿と重なったため出場数に不安があったものの、ゴールド、シルバー合わせて64艇のエントリーあり。

レースのコンセプトは、

- ・ゴールド、シルバーとも敢えてカットレースを設けないことで1レースの重みを感じてもらう。
- ・シルバーはハーバーの目の前でより多くのレースを行ないレースに慣れてもらう。

予報では北風で安定するはずが、西回りで南に振れるという江ノ島では珍しい気象条件のなか、ゴールドは予定通り4レースを実施。シルバーもコンセプト通り10分前後のレースを11レース実施することができました。

● 第7回 西日本ジュニア・ユース交流セーリング選手権大会

2016年5月3日～5日 佐賀県ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	長谷川真大	B&G高松海洋クラブ	3251	9	男
2	抜井 理紗	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3115	9	女
3	前田 海陽	広島セーリングスクール	3344	8	男
4	小菅 楓	広島セーリングスクール	3283	8	女
5	磯辺 壱心	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	7	男
6	大槻多恵美	B&G松山海洋クラブ	3281	8	女
7	夏秋 理美	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3240	7	女
8	青山 知央	葉山町セーリング協会	3168	7	女
9	元尾 帆斗	B&G津海海洋クラブ	3317	7	男
10	河野 瑞平	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3023	8	男

前線を伴った低気圧の通過によって、大会初日のチームレースは中止となりました。大会2日目も低気圧の影響で南西の風が強まり、強風でのフリートレースになりました。15～25ノットの強弱のある風の中、3レース実施しました。強風の中では、ナショナルチームのメンバーのスピードが目立ちます。その中でも、B&G高松海洋クラブの長谷川真大選手が、1-3-1の成績でトップとなりました。大会最終日は、3～6ノットの風で2レース実施しました。この風では昨日リタイアした軽量選手の活躍が目立ち、上位の選手も苦しいレース展開となりました。それでもB&G高松海洋クラブの長谷川真大選手が、最終日もトップを守り切り、優勝しました。一方、Bクラスは全6レース実施し、真野浜セーリングクラブの嶋倉侑司選手が優勝しました。



● 熊本地震支援チャリティー GillCup 2016 OP級浜名湖ジュニアオープンレース

2016年5月14日～15日 静岡県浜松市北区ビーチスマリーナ沖

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3110	7	男
2	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	7	男
3	豊島 有壮	広島ベイディンギークラブ	3030	6	男
4	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	6	男
5	芝田 和尚	江の島ヨットクラブジュニア	3248	7	男
6	内貴航路朗	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3320	9	男
7	菅澤虎士朗	江の島ヨットクラブジュニア	3150	4	男
8	鷺尾 青	江の島ヨットクラブジュニア	2911	7	女
9	鈴木 海翔	横浜市民ヨットハーバージュニアヨットクラブ	3116	6	男
10	市川 太陽	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	2902	7	男



初心者にも合う浜名湖の特長を活かし、A・Bクラス別のコース設定を始めて2年目。Aクラス：40名(うちNT選手：7名)、Bクラス：14名と今年も大勢の選手が集まってくれました。また天候にも恵まれ、南からの3～6m/sの安定した風が吹き、Aクラス：4レース、Bクラス：5レースがおこなえました。レース結果は、Aクラスの上位はNT選手がほぼ独占。しかも男子ばかり。一方、Bクラスは女子がほぼ独占と好対照でした。大会終了後は、スポンサーから頂いた賞品をめぐり、浜名湖オーブン名物の大じゃんけん大会で大いに盛り上がりいました。また大会1か月前に発生した熊本地震の被災者支援の募金をおこない、新聞社を通じてたくさんの寄付ができました。

● 2016 OP級 関西選手権

2016年5月28日～29日 滋賀県柳ヶ崎ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	須田 智也	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	2879	8	男
2	森 皇翔	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3163	7	男
3	森 美遙	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3311	6	女
4	山田 大夢	海陽海洋クラブ	2944	9	男
5	上原 慎平	和歌山ジュニアヨットクラブ	3014	5	男
6	矢野 陽大	和歌山ジュニアヨットクラブ	3082	6	男
7	山田 冬聖	海陽海洋クラブ	3171	8	女
8	赤松 佑香	和歌山ジュニアヨットクラブ	3015	7	女
9	児島 紛音	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3029	8	女
10	鈴木 萌風	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	3086	9	女

今回はアジア大会と日程が被った為、例年琵琶湖に来てくれるメンバーが来れない状況での開催となり選手集めに苦労した。特にAクラスは何とか15名エントリーを頂いていたのに、急用や怪我で前日や前々日に参加出来なくなったりと3名から連絡を頂いたのが残念であった。初日は朝から風向なし風速0が続き、14時過ぎに240°の風が入り始め、15時20分に何とかAクラス第1レーススタート、この日は1レースしか実施できなかった。翌日は予報では雨で風も殆ど吹かないとのことであったが、朝から30°前後で2m/s前後の風に恵まれ、4レースを実施、A・B共に5レースを実施することができた。今回は微風のレースに終始したが、何とか5レース実施できたことで選手達も満足してくれたことはありがたかった。次年度は和歌山での開催となる。



● 2016年 藤沢チャンピオンレース

2016年6月4日 江の島ヨットハーバーおよび沖海面

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	内貴航路朗	横浜市民ジュニアヨットクラブ	3320	9	男
2	菅澤 龍佑	江ノ島ヨットクラブジュニア	3288	9	男
3	前田 海陽	広島セーリングスクール	3151	9	男
4	バーキンス ハナ	江ノ島ヨットクラブジュニア	3125	9	女
5	桔川翔太郎	江ノ島ヨットクラブジュニア	3338	8	男
6	服部 陸太	江ノ島ヨットクラブジュニア	3351	8	男
7	中島 優揮	横浜市民ジュニアヨットクラブ	3246	8	男
8	柴田 伶大	KMC横浜ジュニアヨットクラブ	3231	9	男
9	古川 悠航	横浜ジュニアヨットクラブ	3109	8	男
10	岡田 爽良	藤沢市青少年セーリングクラブ	2943	7	男



本大会は遠いところでは広島からの参加者もあり、昨年に引き続き13クラブ、63名のエントリーをいただきました。NORでは4レースを予定しておりましたが、徐々に南風が強まり、Aクラス2レース、Bクラス1レースの強風レースとなりました。暖かい季節となり、新シーズンからAクラスに上がったばかりのジュニアも多く、強風レースではナショナルチームのトップ陣とはセーリングの安定感が異なり、引き離されます。タイムリミットとなる艇を出しながら1レース目を終えました。2レース目では更に風が上がり、アカ汲みに終始する艇が増えたため、2レース目終了後に一旦ハーバーバック。天候の回復を待ちましたが、残念ながら風は弱まらず、そのまま大会終了となりました。

強風の中、優勝を勝ち取ったのは横浜市民の内貴選手。2位は江の島ヨットクラブジュニアの菅澤選手、3位は広島セーリングスクールの前田選手でした。いずれも今年のナショナルチームであり、安定した走りを見せました。Bクラスは1レースのみでしたが強風の中がんばった江の島ヨットクラブジュニアの東道選手、藤沢の増本選手、海陽海洋の富永選手がそれぞれ1~3位を獲得しました。

● 2016年度 強化合同フリートレース 江の島ジュンレガッタ

2016年6月12日 江の島ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	7	男
2	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	6	男
3	青山 知央	葉山町セーリング協会	3168	7	女
4	黒田研一郎	江の島ヨットクラブジュニア	3149	7	男
5	鷺尾 青	江の島ヨットクラブジュニア	2911	7	女
6	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3351	8	男
7	藤森佑太郎	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	3130	7	男
8	菅澤虎士朗	江の島ヨットクラブジュニア	3150	4	男
9	服部 輝海	江の島ヨットクラブジュニア	3120	6	男
10	菅野 韶	夢の島ヨットクラブ	3184	6	男



6月12日、江の島ヨットハーバーにて年3回予定されている2016年度 江の島強化合同フリートレースの一回目、ジュンレガッタがAクラス57艇、Bクラス19艇で開催されました。当日は朝から南の微風が続き、運営艇は予定通り準備を進めるも、南の風2~3ノットと上がらず、陸上D旗掲揚前にAP1を掲揚し9時55分の予告信号を10時55分に変更しました。10時を過ぎた頃から風も上がり始め、予定の1時間遅れで南南西の風6~8ノットの風の中、第一レースをスタートしました。今回からBクラスのコースをトラベゾイドから上、流し込みフィニッシュに変更し、複雑な波が発生する江の島海面でもBクラスが安全に楽しめる様にしました。引き続き2レース目を行いましたが、徐々に風が落ちてしまつたため、3マークでS旗の掲揚、コース短縮を行いました。3レース目は6~8ノットの風に戻ったため予定のコースで順調に行いました。4レース目は6ノットでスタートし、期待された風が上がることはなく、3マークでC旗の掲揚を行い、フィニッシュを当初のレグの半分程度とし、全4レースを完了しました。

● 2016年 OPヨット大会 in KATSURAHAMA

2016年7月9日～10日 福津市勝浦浜、勝浦浜海洋スポーツセンター前海面

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	幸野 翔太	B&G別府海洋クラブ	3325	6	男
2	葉山カトル	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3117	6	女
3	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	2979	7	男
4	夏秋 理美	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3240	7	女
5	西澤 佳菜	北九州ジュニアヨットクラブ	3268	7	女
6	中村 晃	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3158	5	男
7	元尾 帆斗	B&G時津海洋クラブ	3317	7	男
8	大槻 千寿	B&G松山海洋クラブ	3135	6	女
9	濱田 登羽	北九州ジュニアヨットクラブ	3330	7	男
10	花田 馨	光セーリングクラブ	3159	6	女



7月9日午前9時受付開始、午前11時開会式一小山福津市長挨拶。艇長会議と役員運営会議後に12時30分出艇、13時第1レース開始Aクラスの5分後にBクラススタート、初日は予想に反して晴天になり、軽風でA・Bクラスは4レース、Cクラスは12レースを消化した。翌10日は朝から無風のため風待ちになり、10時過ぎに北西風が吹き始めたため10時35分にAクラス、5分後にBクラスがスタート。その後風が落ち12時すぎまで待ったが無風のため第5レースはノーレースとなりA・Bクラスを終了した。なおCクラスは4レースを消化した。14時30分閉会式と表彰を行い、15時終了、解散した。

● 2016 B&G OP級ヨット大会 【西日本大会】

2016年7月17日～18日 北浜ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	夏秋 理美	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3240	7	女
2	向井真太郎	広島セーリングスクール	3225	6	男
3	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	2979	7	男
4	西澤 佳菜	北九州ジュニアヨットクラブ	3268	7	女
5	幸野 翔太	B&G別府海洋クラブ	3325	6	男
6	尾道 葵音	B&G時津海洋クラブ	3256	9	女
7	濱田 登羽	北九州ジュニアヨットクラブ	3330	7	男
8	森 仁希	B&G松山海洋クラブ	3102	9	男
9	元尾 帆斗	B&G時津海洋クラブ	3317	7	男
10	葉山カトル	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3117	6	女

【Bクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	旭 夏希	B&G高松海洋クラブ	3254	5	女
2	木下 時一	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3063	4	男
3	下石 雅楽	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3243	5	女
4	中田 祐輔	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3027	4	男
5	河野 墾	B&G別府海洋クラブ	3079	3	男
6	宮崎 七海	北九州ジュニアヨットクラブ	3004	4	女
7	本庄 玖伽美	B&G別府海洋クラブ	3077	5	女
8	谷口 日奈	北九州ジュニアヨットクラブ	3329	6	女
9	河野 慶吾	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	2976	4	男
10	大西 晴仁	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3025	4	男

● 2016年度JOCジュニアオリンピックカップ兼JSAFジュニア・ユースセーリングチャンピオンシップ 2016年7月30日～31日 和歌山セーリングセンター

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	小菅 楓	広島セーリングスクール	3283	8	女
2	豊島 有壮	広島ベイディングクラブ	3030	6	男
3	嶋倉 照晃	真野浜セーリングクラブ	3271	7	男
4	岩永 燐汰	海陽海洋クラブ	3226	5	男
5	磯辺 壱心	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	7	男
6	高山功太郎	海陽海洋クラブ	3260	8	男
7	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3017	7	男
8	北原 頌子	江の島ヨットクラブジュニア	3239	6	女
9	高橋果乃子	海陽海洋クラブ	3347	7	女
10	前田 月里	広島セーリングスクール	3145	6	女

今年も暑い二日間となったが、比較的安定したシーブリーズが吹き、軽・中風のなかで全7レースが実施できました。成績も順当なものになったのではないかと思います。



● ODO CUP 2016／第28回 福岡ジュニアヨット選手権大会

2016年8月6日～7日 福岡市ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	下石 雅楽	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3243	5	女
2	西澤 佳菜	北九州ジュニアヨットクラブ	3268	7	女
3	夏秋 理美	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3240	7	女
4	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3017	7	男
5	元尾 帆斗	B&G時津海洋クラブ	3317	7	男
6	中村 晃	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3356	5	男
7	北原 頌子	江の島ヨットクラブジュニア	3239	6	女
8	葉山カトル	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3117	6	女
9	濱田 登羽	北九州ジュニアヨットクラブ	3330	7	男
10	尾道 葵音	B&G時津海洋クラブ	3256	9	女

8月6-7日に行われた表記レースについて6日は第一レースが終了後、雷により全艇ハーバーバック、その後雷雨となりこの日のレースは中止となりました。7日はスタート時刻を予定より1時間早め、13時30分の最終予告信号までに3レースを消化し、全4レースで大会を終了しました。予定レース数は消化できませんでしたが、小戸の夏らしいシーブリーズの中、平均4-5m/secの良い風でレースが出来ました。



● 第39回 西日本OP級ヨット選手権大会

2016年8月20日～21日 佐賀県ヨットハーバー

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	前田 海陽	広島セーリングスクール	3344	9	男
2	安永 昂生	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3017	7	男
3	小菅 楓	広島セーリングスクール	3283	8	女
4	元尾 帆斗	B&G時津海洋クラブ	3317	7	男
5	小林 奏	宮津ジュニアヨットクラブ	3342	9	女
6	濱田 登羽	北九州ジュニアヨットクラブ	3330	7	男
7	河野 大陸	B&G別府海洋クラブ	3107	7	男
8	磯辺 壱心	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	3270	7	男
9	河野 瑠平	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	3023	8	男
10	上園田心太浪	B&G別府海洋クラブ	3032	7	男



夏休み最後の週末に行われた西日本選手権。初日は北東の風5～7m/sでレースが行われました。唐津特有の波長の長い波に悩まされますが、上位の選手たちは体を上手に使いスピードロスしません。4レースを行い選手たちも心地よい疲れの中、初日が終了しました。2日目、朝はほぼ無風ですが9時ごろには北風が入り始めます。海面へ出たころには白波も立ち始めます。この日も良い風の中2レースが行われ全レースを消化しました。上位にはナショナルチーム勢が残り強さを見せました。閉会式では全日本OPへの出場資格を得た選手たちが呼ばれ、会場は大いに盛り上がりました。次回は40回記念大会となります。沢山の参加をお待ちしています。

● 2016 第34回 東日本オプティミスト級セーリング選手権

2016年8月26日～28日 神奈川県 葉山新港および沖海面

【Aクラス】

順位	選手名	フリート	セールNo.	学年	性別
1	鈴木亮太朗	静岡県セーリング連盟 浜名湖ジュニアクラブ	3294	8	男
2	池田 海人	江の島ヨットクラブジュニア	3211	7	男
3	服部 陸太	江の島ヨットクラブジュニア	3351	8	男
4	服部 輝海	江の島ヨットクラブジュニア	3174	6	男
5	芝田 和尚	江の島ヨットクラブジュニア	3248	7	男
6	青山 知央	葉山町セーリング協会	3358	7	女
7	岩永 煉汰	海陽海洋クラブ	3226	5	男
8	大澤 雄帆	葉山町セーリング協会	3168	6	男
9	桔川翔太郎	江の島ヨットクラブジュニア	3338	8	男
10	重松 駿	夢の島ヨットクラブ	3176	6	男



3つも同時に発生した台風の動きに注目していたが幸い期間中は大きな影響はなかった。初日Aクラスは2レースBクラスは4レースと順調な滑り出し。夜は恒例の逗子マリーナでの懇親会でお腹いっぱい食べた後はじゃんけん大会で盛り上がり選手たちは素敵な景品をもらって満足そうでした。2日目は朝から雲行きが怪しく雷雲にはずっと注意してましたが、レースは順調に進行していきます。だんだん風が上がって一時は最大風速25ノットくらいまで上がり小さい子にはシビアなコンディションでしたが4レース目には少し落ちてきました。Bre-suもきつかったようです。最終日も朝からいい風が吹いてちょうど昼ごろには2レースを終え全8レースを実施できました。結果最終日に1-1とまとめた浜名湖の鈴木亮太朗選手が総合優勝となりリビエラカップを手中に収めました。Bレースはシリーズを通じてコンスタントにまとめた横浜ジュニアの中島拓海選手がもう一つのリビエラカップを手にしました。いつもなら必ずある風待ちもなく閉会式が終わって帰るところから雨が降り出すという非常に天候に恵まれた大会でした。



全日本OP級ヨット選手権大会 歴代チャンピオン 年表

回	西暦	期間	開催地	参加艇	総合			女子			小学生		
					1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1	1969 (S44)	4/1~2	江ノ島	1 4	黒川 徹也 (江ノ島)	須原 洋司 (江ノ島)	橋田 健一 (江ノ島)						
2	1970 (S45)	8/28~29	江ノ島	9 (低学年) 9 (高学年)	生野 裕治 (大分) 斎藤 正毅 (江ノ島)	東田 義尚 (江ノ島) 生野 邦子 (大分)	渡辺由起子 (大分) 木曾 康晴 (江ノ島)						
3	1971 (S46)	8/9~10	江ノ島	1 8	斎藤 正毅 (江ノ島)	小宮 亮 (江ノ島)	青木 智和 (江ノ島)						
4	1972 (S47)	8/17~18	江ノ島	1 8	樺本 敦司 (江ノ島)	小宮 亮 (江ノ島)	青木 智和 (江ノ島)						
5	1973 (S48)	8/16~17	江ノ島	1 6	青木 智和 (江ノ島)	樺本 敦司 (江ノ島)	浜尾太郎 (江ノ島)						
6	1974 (S49)	5/5~6	江ノ島	1 5	青木 智和 (江ノ島)	樺本 敦司 (江ノ島)	浜尾 太郎 (江ノ島)						
7	1975 (S50)	8/2~3	琵琶湖	3 4	西村 祐介 (江ノ島)	ルツルケ (江ノ島)	寺田 全輝 (琵琶湖)						
8	1976 (S51)	7/31~8/1	宮島	6 3	山村 洋之 (和歌山)	寺田 全輝 (琵琶湖)	岡 大 (千葉)						
9	1977 (S52)	8/4~5	函館	4 9	新谷 章 (江ノ島)	石川 一也 (江ノ島)	服部 (島根)						
10	1978 (S53)	8/2~4	諏訪湖	5 3	石川 一也 (江ノ島)	曲田 拓史 (江ノ島)	亀井 功 (隠岐)	山村 千恵 (諏訪湖)	松田 明子 (琵琶湖)	加藤 聰子 (清水)			
11	1979 (S54)	8/11~14	紀伊田辺	5 3	山口 能孝 (神戸)	上野 友和 (南紀)	石川 一也 (江ノ島)						
12	1980 (S55)	12/26~29	佐島	4 3	強風の為中止			強風の為中止			強風の為中止		
13	1981 (S56)	7/26~29	江ノ島	5 9	松田 哲也 (琵琶湖)	高山 卓衛 (江ノ島)	秋田 大介 (琵琶湖)						
14	1982 (S57)	10/9~11	江ノ島	9 4	高山 卓衛 (江ノ島) 厨川 直樹 (葉山)	三輪 牧人 (葉山)	成田 晶彦 (エスピー)				宮本 大介 (葉山)	西之園裕二 (琵琶湖)	大門 雅広 (琵琶湖)
15	1983 (S58)	10/8~10	琵琶湖	8 5	厨川 弘樹 (葉山)	三輪 牧人 (葉山)	大門 雅広 (琵琶湖)	厚木 文 (エスピー)	熊谷 直美 (エスピー)	山田祐規子 (琵琶湖)	宮本 大介 (葉山)	浅井 紀博 (清水)	刑部 知周 (石川)
16	1984 (S59)	11/23~25	佐島	6 9	三輪 牧人 (エスピー)	池田 新 (エスピー)	吉岡 卓 (琵琶湖)	静間 敦子 (葉山)	山田祐規子 (琵琶湖)	山元けやき (琵琶湖)	阪間 俊文 (江ノ島)	古市 英貴 (エスピー)	厚木 基 (エスピー)
17	1985 (S60)	11/2~4	江ノ島	7 1	岩波 将輝 (横浜市民)	大門 雅広 (琵琶湖)	阪間 俊文 (江ノ島 Jr)	静間 敦子 (葉山)	山下 美香 (横浜)	谷本香菜子 (松島)	今野 巧 (葉山)	山下 美香 (横浜)	釜池 恒平 (宇和島)
18	1986 (S61)	10/31~11/3	和歌山	7 2	宮本 大介 (葉山)	釜池 恒平 (宇和島)	阪間 俊文 (江ノ島)	山下 美香 (横浜)	持丸由紀子 (葉山)	青山 久恵 (エスピー)	釜池 恒平 (宇和島)	川上賢一郎 (エスピー)	山下うらら (横浜)
19	1987 (S62)	10/31~11/3	賀茂村	7 0	松永 卓也 (琵琶湖)	阪間 俊文 (江ノ島)	山下 美香 (横浜)	山下 美香 (横浜)	山田あずさ (横浜)	吉岡 朋子 (琵琶湖)	釜池 恒平 (宇和島)	藤井 洋暢 (横浜)	多賀康太郎 (琵琶湖)
20	1988 (S63)	9/23~27	横浜	7 6	戸田 茂樹 (千葉)	松本 健司 (横浜市民)	中村 和男 (横浜市民)	山下 美香 (横浜)	山下 麗 (横浜)	山田 真弓 (横浜市民)	松本 健司 (横浜市民)	岩波 俊光 (葉山)	関 康治 (横浜)
21	1989 (H 1)	11/23~26	江ノ島	8 1	関 康治 (横浜)	山田 基善 (琵琶湖)	松本 健司 (横浜市民)	山下 麗 (横浜)	菅谷 泰子 (中央区)	松浦 宏美 (清水)	西谷拓造 (江ノ島)	永山 桃子 (横浜)	松永 鉄也 (琵琶湖)
22	1990 (H 2)	10/10~12	琵琶湖	1 0 2	関 一人 (千葉)	中村 公紀 (琵琶湖)	松本 健司 (横浜市民)	永山 桃子 (横浜)	山田 真弓 (横浜)	望月 貞代 (清水)	松永 鉄也 (琵琶湖)	渡辺 哲雄 (夢の島)	荒川 海彦 (名古屋)
23	1991 (H 3)	11/1~4	シホーニア	1 0 0	山下 麗 (横浜)	佐藤 隆博 (江ノ島)	松本 健司 (横浜市民)	山下 麗 (横浜)	安岡 千夏 (江ノ島)	山田 真弓 (横浜市民)	松永 鉄也 (琵琶湖)	田窪 洋人 (江ノ島)	佐渡 忠俊 (t s s)

JODA YEAR BOOK 2016

回	西暦	期間	開催地	参加艇	総合			女子			小学生		
					1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
24	1992 (H 4)	10/31~11/3	宮島	102	松永 鉄也 (琵琶湖)	荒川 海彦 (なごや)	渡辺 哲雄 (夢の島)	仲野 照美 (琵琶湖)	永山 桃子 (横浜)	三部 ゆうき (江ノ島)	三部 ゆうき (江ノ島)	田村 勇太 (t ss)	辻 宏樹 (鳥取)
25	1993 (H 5)	10/31~11/3	御前崎	107	渡辺 哲雄 (夢の島)	荒川 海彦 (なごや)	松永 鉄也 (琵琶湖)	三部 ゆうき (江ノ島)	羽田 梨絵 (江ノ島)	近藤 愛 (葉山)	斎藤 祐介 (t ss)	佐渡 忠洋 (t ss)	水谷 謙太 (名古屋)
26	1994 (H 6)	11/3~6	横須賀	137	三部 ゆうき (江ノ島)	田窪 洋人 (江ノ島)	松永 鉄也 (琵琶湖)	三部 ゆうき (江ノ島)	鈴木恵美子 (江ノ島)	吉迫 由香 (t ss)	内田 謙 (横浜市民)	佐渡 忠洋 (t ss)	萩原 潤 (伊東)
27	1995 (H 7)	11/3~5	シーポニア	139	内田 謙 (横浜市民)	中田 俊輔 (横浜市民)	中川 剛 (琵琶湖)	久留原千尋 (琵琶湖)	岡田 風美 (葉山)	山田 梢 (横浜市民)	今井 信行 (琵琶湖)	7月1.アソニー (江ノ島)	田中 俊介 (琵琶湖)
28	1996 (H 8)	11/1~4	蒲郡	135	斎藤 祐介 (t ss)	神谷 航路 (中央区)	佐渡 忠洋 (t ss)	近藤 詩織 (葉山BAJR)	平井 敦子 (江ノ島)	高橋 礼子 (ビーチ)	神谷 航路 (中央区)	今井 信行 (琵琶湖)	田中 俊介 (琵琶湖)
29	1997 (H 9)	10/31~11/3	浜名湖	140	神谷 航路 (中央区)	高橋 礼子 (ビーチ)	内田 謙 (横浜市民)	高橋 礼子 (ビーチ)	平井 敦子 (江ノ島)	白井 敦子 (ビーチ)	神谷 航路 (中央区)	野中 祐樹 (江ノ島)	西村 真洋 (琵琶湖)
30	1998 (H10)	10/31~11/3	琵琶湖	139	神谷 航路 (中央区)	今井 信行 (琵琶湖)	西村 真洋 (琵琶湖)	田畠和歌子 (兵庫県ヨット)	高橋 礼子 (ビーチ)	疋田菜穂子 (琵琶湖)	近藤 康史 (葉山BAJR)	植田 順大 (ビーチ)	豊田 翔平 (兵庫県ヨット)
31	1999 (H11)	10/30~11/2	江ノ島	140	神谷 航路 (中央区)	平井 敦子 (江ノ島)	鈴木 美帆 (江ノ島)	平井 敦子 (江ノ島)	鈴木 美帆 (江ノ島)	池本 碧 (江ノ島)	小宮 航 (江ノ島)	飯束潮吹 (江ノ島)	木内 蓉子 (江ノ島)
32	2000 (H12)	11/9~11/12	江ノ島	140	神谷 航路 (中央区)	木内 蓟子 (江ノ島)	樋口 譲 (横浜市民)	木内 蓟子 (江ノ島)	鈴木 美帆 (江ノ島)	池本 碧 (江ノ島)	川添 正浩 (江ノ島)	小栗 拓也 (ビーチ)	横田 敏一 (江ノ島)
33	2001 (H13)	11/2~11/5	和歌山	138	平井 恵子 (江の島)	鈴木 美帆 (江の島)	木内 蓟子 (江の島)	平井 恵子 (江の島)	鈴木 美帆 (江の島)	木内 蓟子 (江の島)	小宮 航 (江の島)	曾和 慎也 (琵琶湖)	横田 敏一 (江の島)
34	2002 (H14)	11/1~11/4	蒲郡	141 (韓国5)	小宮 航 (江の島)	河合龍太郎 (静岡県連)	飯束潮吹 (江ノ島)	木内 蓟子 (江ノ島)	豊田 晃子 (別府)	斎藤 梨菜 (広島)	石原 帆高 (江の島)	磯崎 友也 (茨城)	鈴木明日美 (KMC横浜)
35	2003 (H15)	10/23~26	福岡	139 (韓国5)	石原 帆高 (江の島)	川添 正浩 (江ノ島)	小宮 航 (江の島)	後藤 沙季 (別府)	松下 結 (長崎)	山田 舞波 (別府)	熊川 均 (江の島)	小宮 悠 (江の島)	田中 航輝 (兵庫)
36	2004 (H16)	10/31~11/3	江の島	140	熊川 均 (江の島)	埼玉匠海 (江の島)	小宮 悠 (江の島)	小宮 悠 (江の島)	後藤沙季 (別府)	松下 結 (長崎)	埼玉匠海 (江の島)	吉永紀仁 (玄海)	田中 航輝 (兵庫)
37	2005 (H17)	11/3~11/6	名取	136	小宮 悠 (江の島)	大日向喜咲 (横浜)	若林知世 (江の島)	小宮 悠 (江の島)	大日向喜咲 (横浜)	若林知世 (江の島)	大日向喜咲 (横浜)	若林知世 (江の島)	石原漁人 (江の島)
38	2006 (H18)	11/2~11/5	広島	140	小宮 悠 (江の島)	埼玉匠海 (江の島)	熊川 均 (江の島)	小宮 悠 (江の島)	長堀友香 (中央区)	高橋友海 (江の島)	森山慎太郎 (光)	渡部雄貴 (松山)	石原漁人 (江の島)
39	2007 (H19)	11/1~11/4	別府	146 (韓国6)	脇坂 尊 (江の島)	若林知世 (江の島)	土居愛実 (江の島)	若林知世 (江の島)	土居愛実 (横浜)	新谷つむぎ (江の島)	岡田奎樹 (福岡)	深沢瑛里 (江の島)	佐藤宏樹 (江の島)
40	2008 (H20)	10/31~11/2	蒲郡	142 (韓国2)	若林知世 (江の島)	岡田奎樹 (福岡)	脇坂 尊 (江の島)	若林知世 (江の島)	市川夏未 (夢の島)	新谷つむぎ (江の島)	埼玉成海 (江の島)	岸 裕花 (江の島)	横山南泉 (江の島)
41	2009 (H21)	10/31~11/3	江の島	145 (香港5)	山本 一徹 (広島)	岡田圭樹 (福岡)	樋口 鮎 (横浜市民)	市川夏未 (夢の島)	新谷つむぎ (江の島)	深沢瑛里 (江の島)	田中美紗樹 (兵庫)	埼玉成海 (江の島)	高宮 豪太 (江の島)
42	2010 (H22)	11/4~11/7	光	142 (SUI1,NZL1)	高宮豪太 (江ノ島)	高山大智 (B&G別府)	菅野 翔 (かながわ)	岸 祐花 (湘南)	有山 夏子 (江の島)	川戸紅葉 (夢の島)	松尾虎太郎 (広島)	高山颯太 (KMC横浜)	小村凜平 (玄海)
43	2011 (H23)	8/20~23	唐津	141 (NZL1)	高竹義樹 (広島SS)	榎原健人 (藤沢市)	田中美紗樹 (B&G兵庫)	田中美紗樹 (B&G兵庫)	藤本優 (江の島)	須河内茉里 (藤沢市)	神谷仁 (浜名湖)	小木曾涼 (江の島)	尾道佳諭 (B&G時津)
44	2012 (H24)	8/23~26	葉山	140	高山颯太 (KMC横浜)	田中美紗樹 (B&G兵庫)	高宮豪太 (江の島)	田中美紗樹 (B&G兵庫)	辻アンナ (中央区)	宇田川真乃 (横浜)	花田義弘 (光)	桐井航汰 (江の島)	玉山義規 (丸玉)
45	2013 (H25)	11/1~4	蒲郡	141 (韓国2)	小木曾涼 (江ノ島)	尾道佳諭 (B&G時津)	玉山義規 (丸玉)	辻アンナ (中央区)	宇田川真乃 (横浜)	中村瑠夏 (横浜)	内貴航路朗 (横浜市民)	前田海陽 (広島)	佐々木マリ(准和) (B&G兵庫)
46	2014 (H26)	11/1~3	広島	140	倉橋直暉 (海陽)	内貴航路朗 (横浜市民)	前田海陽 (広島)	拔井理紗 (B&G兵庫)	三浦凪砂 (浜名湖)	藤本 諒 (江の島)	服部陸太 (江の島)	須河内陽夏 (藤沢市)	池田海人 (江の島)
47	2015 (H27)	11/20~23	江の島	140	倉橋直暉 (海陽)	服部陸太 (B&G兵庫)	拔井理紗 (B&G兵庫)	蓮 千鶴 (江の島)	パーキンス (江の島)	池田海人 (江の島)	磯辺壱心 (B&G兵庫)	安永昂生 (B&G福岡)	

* 第14回大会より世界選手権大会の1次予選を兼ねる

* 第15回大会より女子、小学生の部にカップが出来る



パフォーマンスセイルクラフトジャパン(株)
〒252-1114 神奈川県綾瀬市上土棚南3-13-31
TEL 0467-76-1051 FAX 0467-76-1052



NEILPRYDE
S A I L I N G



BayTrip Sailing は世界に挑戦する
OP セーラーを応援しています。

BayTrip



OP NEW DESIGN SAILS
R1 R2 R4 PL3

NORTH SAILS GO BEYOND™

本社・横浜口フト 045-770-5666 関西口フト 0798-26-7771 北海道口フト 0134-25-3227 www.jp.northsails.com NORTH SAILS

OP NEWS ON BLOG

ヤシママリンサービス
Yashima Marine Service



みんなの一生懸命を応援します。

yashimA
Marine-Service
ヤシママリンサービス

URL : <http://yashima-marine.jp/>
e-mail : yashima@yashima-marine.jp

TEL 082-254-5137 / FAX 082-252-2185
〒734-0003 広島市南区宇品東6-1-78
(イオン宇品ショッピングセンター・南税務署ソバ)



Sailing Gear Shop
yashimA
Marine-Service

